

Young Women Scientist camp 2016 報告

東京農工大学 大学院 農学府 農業環境工学専攻

江部杏奈 笹倉萌子

2016年10月22~23日の2日間、韓国のDaejeonでYoung Women Scientist campがthe association of Korean Women Scientists and Engineersの主催により行われました。日本からは東京農工大学から二人参加させて頂きました。1日目を江部が、2日目を笹倉が報告させて頂きます。

1日目はオープニングセレモニーから始まり、昼食をはさんでSmart Sister Programの紹介、そしてオーラルおよびポスタープレゼンテーションがあり、welcome dinnerで交流を深める、という流れでした。オープニングセレモニーではKorea Advanced Institute of Science and Technology(KAIST)の学長であるSung Mo Kang博士より第4次産業革命と科学、そして女性科学者の活躍に向けてのお話がありました。機械化、大量生産、そして自動化を経て、今産業はIoTをはじめとするソフトの部分の発達が著しい4度目の産業革命のさなかであり、科学技術の活躍するフィールドはここにあるということでした。システムやソフトの高度な発達により、機械に取って代わられる職業も存在する中で、生き残っていくためのキーワードとしては、広い視野で考えること・多様性を尊重すること、創造性を育むこと・協力することなどが挙げられていました。しかし、このような要素を高めていっても、女性が活躍するのを阻む、見えない壁”Glass Ceiling”が存在することも指摘していました。それを突破していく為には、女性の科学者が分野を越えて集まることで視野を広げたり、コネクションを広げていく為のプラットフォームが必要であり、KWSEや今回のcampなどがその役割を果たす重要な場であることが再確認されました。

昼食はお弁当形式で、キンパという韓国ののり巻きなど、韓国らしい食材を楽しみました。一緒に食べたオーストラリア人が、のり巻きやおもちなどを奇妙な物だといって苦手そうにしていたのが印象的で、日本の食文化が韓国のものに近いということに気づきました。

昼食後に紹介のあったSmart Sister Programは、韓国の大学に通う科学系の韓国人学生と、同じく韓国の大学に通う科学系の留学生とが交流し、意見を交換できる場を提供するもので、Busan/Ulsan、Daegu、Daejeon、Gwangju、Seoulの5つの地域の支部があります。科学的な知見のみならず、文化交流を盛んに行って、海外からの留学生がすぐに韓国での生活になじめるような環境が整えられているとのことでした。

プレゼンテーションの時間は、異分野間で発表する時、最適な発表の仕方はどのようなものだろうと考えさせられました。私のポスターに興味を持って立ち止まってくださった方とコミュニケーションを取るうちに、気をつけているつもりでも自分の業界での常識が、相手の常識ではないということ意識させられる瞬間が多々ありました。他の人の発表を聞くときにも感じたものです。分野を越えたコミュニティは素晴らしいですが、そこに参加する際にはひと工夫をすることでよりその会が充実したものになるのではないかと思います。

Welcome dinnerはテコンドーの圧倒的なパフォーマンスに感動し、各国の素敵な衣装を楽しみ、様々な国の人とお話して、楽しい時間を過ごすことができました。



各国のtraditional costume



日本の文化紹介ブース

2日目は菅原香代子さんを含めた4人の方々からのお話の後、Group Mentoring、Korean Tea Ceremony、K-pop Dance、Global Issue Discussion、そしてNetworking Dinnerで本campは締めくくられました。1日目と同様に盛沢山な1日でした。

午前中のセッションは女性の社会進出に関するお話で、今後消えゆく職業及び新たに生み出される職業、これからの時代で必要とされるスキルとは何か、その中で女性の役割とは何かといったことが取り上げられました。女性技術者及び科学者の活躍のためには、「ネットワークの形成・強化」が重要であること、本campを通して積極的に視野を広げ、コネクションを広げて行って欲しい、という主催者側の思いがとても強く伝わってきました。

昼食後は少人数のグループに分かれてメンタリングを行いました。「自己の再発見-自身をブランドとして表現してみよう-」がテーマであり、グループごとに1枚の模造紙に意見をまとめ、発表を行いました。短い時間で課題の趣旨を読み取り、メンターの指導の下、意見をまとめあげ形にし発表をするというなかなかハードなものでした。率先してリーダーとなり、メンバーの意見を聞きつつ1つの方向へと導きまとめていく人、そのリーダーを支えるかのように言葉を補う人、それらのアイデアを絵や言葉を用いて紙面にまとめていく人、これらの役割分担は自然に行われ、ああでもないこうでもないという意見を交えながら作業が行われました。

休憩時には韓国茶と茶菓子が振舞われ、友人らと談笑しつつ美味しいお茶とお菓子を楽しみました。休憩後は、流行りのK-popに合わせて皆で楽しくダンスの時間です。沢山の振り付けとテンポの速い曲で大騒ぎしながら汗をかきリフレッシュしました。

ダンスで身体をほぐした後は、Global Issue Discussionです。「食糧問題」及び「男女共同参画」をテーマに各国の代表者が意見交換を行いました。特に2つ目のテーマは、子育てや仕事を抱える参加者の多くが今まさに直面している問題であり議論が白熱していたのが印象的でした。

最後は表彰と夕食で本campが締めくくられました。エネルギーで満ち溢れた魅力的な彼女らと時間や思いを共有することが出来、とても充実した2日間を過ごすことができました。本campに参加する機会を頂き心より感謝しております。



Discussionの様子



韓国茶



Group Mentoringの発表